

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



3年次研修



令和5年6月13日(火)午後3時30分～午後5時に3年次研修(令和3年度初任者)①を行いました。講師は本市SSW(スクールソーシャルワーカー)佐藤まどかさんで、研修テーマは「学校教育相談研修～不登校児童生徒への対応について～」です。

<受講者感想>

- ・今担当しているクラスでも、不登校生徒がいる。つねにどうすればよいのか、考えながら保護者と電話したり、家庭訪問したりしている。今回、事例をもとに専門的なお話を聞いたことは大変勉強になった。
- ・見えない状況や情報を把握するために、誰から、どんな方法で情報を得るかや、保護者や子どもにどのようなアプローチをすれば、子どもの負担や不安、困り感が和らぐかを考えた。子どものつぶやき、心から出た一言を逃さずに、向き合えるようにアンテナを張って、日々、学校で子どもたちと関わっていきたい。
- ・過去に関わってきた児童たちや、今関わっている児童のことを思いながら聴くととても心が苦しくなった。様々な業務をかかえながら、十分な対応ができていないことを感じながら毎日すごしている。「もっとできたことがあるはず」と感じることもある。それでも向き合い続けなければならないと思う。できることをやり続けたい。
- ・環境や背景の情報を様々な方面からアプローチをしていくことが、大切だと感じた。

ICT担当者研修①(小・中)

令和5年6月12日(月)午後3時30分～午後5時に小学校、6月15日(木)午後3時30分～午後5時に中学校のICT担当者研修をリアルタイム(Web会議)で行いました。講師は本センター山野元気指導主事で、研修テーマは「ICT担当者として、児童生徒1人1台端末環境での各学校における教育の発展と指導力の向上を図る」です。

<受講者感想>

- ・プログラミング教育について、様々なことが知れたので、とてもよかった。学校内の先生にも周知していきたいと思う。シミュレーションロボットは興味を持つ子が多そうだ。他の学校の先生方と交流する時間があったので、困っていることや、他の情報が知ることができて良かった。
- ・オンラインを希望している先生が多いと思う。タイパ(タイムパフォーマンス)もコスパ(コストパフォーマンス)もいいので。オンライン研修をすることが、教員のPCスキルを向上する一つの方法だと思う。

『そだちのねっこ』

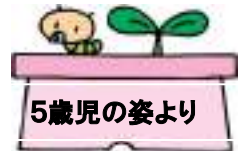
～乳幼児期の遊びより～



【これつけたら、どうなる！？ ～試して・感じて・学ぶカへ～】

5月30日(火)、5歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

『おばけの森駅』と言う、段ボールで道がつけられた迷路のような遊びがありました。その道の上にはいろいろな素材でつけられたおばけが吊り下げられていました。子どもたちが自由に吊り下げられるように洗濯ばさみが付いていました。



- A「ペットボトルつけてみよ」「めっちゃ揺らしたらスピード出るな」
B「ほんまや」「もっと揺らしてみよ」
A「あっ、ごめん」「当たってしまった」
B「うん。ペットボトル、結構当たったら痛いわ」
A「ごめん。当たったら痛いのはあかな～」 「なんか痛くないもの探してくるわ」
B「一緒に探そ」
A「これやったらどうやる？(豆腐のプラカップをもってくる)」
B「吊ってみよ。揺らしてみて」
A「中に手裏剣入れて落ちへんように揺らしてみるわ」
B「ゆるめな！でも・・・。これも当たったら痛いわ」
A「う～ん。ちょっと考えよか」

という子ども同士の会話を聞きました。おばけになる素材を実際に吊り下げてどうなるか試している姿でした。保育者から「危ないからだめ」と注意をされてやめるのではなく、見守りながらも子ども同士のやりとりを聞き、「よく気づいたね。どうする？」と子どもたちが自分たちで問題意識をもち、解決につながるような保育者の声かけや試すことができる環境も重要なポイントとなります。

そうすることで、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」につながり、思考力・判断力・表現力等の基礎を育むきっかけとなります。



特別支援教育コーディネーター研修③



令和5年6月15日（木）午後3時30分～午後5時に特別支援教育コーディネーター研修③を行いました。講師は八尾市健康福祉部障がい福祉課職員で研修テーマは「学齢期からつなげる福祉～頼れる機関を増やしておくことの必要性～」です。後半は報告・グループワークで、テーマは「特別支援教育コーディネーターとしての役割と取り組み」で報告者は本市八尾小学校特別支援教育コーディネーターの石戸真奈美教諭でした。

<講義から学んだこと>

- ・相談機関との連携は非常に重要だと感じた。事例にもあったように、早期の連携が子どもたちの今後に繋がるのだと感じた。小さなサインを見逃すことなく、しっかりと1人ひとりと向き合うことの大切さを改めて感じた。
- ・学齢期から福祉につなげることで卒業後にも学校から行政の支援に移行できることを学んだ。トライアングルプロジェクトをより活性化できるよう、子どもたちの家庭環境にもよくアンテナを張るようにしたいと思う。
※トライアングルプロジェクト：文部科学省・厚生労働省が家庭と教育と福祉の連携を目指す取り組み。

<報告・グループワークより>

- ・特別支援教育コーディネーターとしての仕事内容についての悩みがあったので、共有できてよかった。今後も特別支援教育コーディネーター同士のつながりをもっとたくさん持つことができるといいと思う。
- ・小学校の支援学級の実態を知ることができた。また来年度以降入学してくる生徒がどんな支援を受けてきたのかを知る機会になった。

食育の授業づくり研修



令和5年6月16日（金）午後3時30分～午後5時に食育の授業づくり研修を行いました。講師は武庫川女子大学藤本勇二准教授で、研修テーマは「学校教育全体で進める令和の食育実践」です。

<受講者感想>

- ・本日の研修では、食育以外の授業にも関わる視点を頂いたと思う。特にナッジの視点、ちょっとやってみたくなるという考えをもって授業を考えるのは教師も子どもも楽しくなるだろうなと思った。食から社会、この流れは子どもたちがすごく興味をもって取り組みそうだと思った。
※ナッジ=nudge 英語で「そっと後押しをする」という意味。
- ・アップサイクルについても、担任の先生と授業をやってみたいと思った。
※アップサイクル=upcycle 英語で「廃棄予定であったものに手を加え、価値をつけて新しい製品へと生まれ変わらせる手法」という意味。みかんの皮をスポンジにしたり、野菜をクレヨンにするなどが紹介された。
- ・食育の授業の切り口がとても面白く、実際に授業をする時に取り入れたいと思った。また、子どもたちの興味をひく仕掛けも参考になった。食と栄養にとどまらず広い視野で食をとらえて発信していけるようになりたい。

学校 ICT 基礎研修

研修の内容 1. 情報モラル・ 情報セキュリティ

- 1.1 個人情報とは
- 1.2 個人情報漏洩について(ISE Nより)
- 1.3 小さなことから行う個人情報管理
- 1.4 著作権について

令和5年6月20日(火)午後3時30分～午後5時に学校 ICT 基礎研修をリアルタイム(Web開催)で行いました。この研修は、新規採用の養護教諭・学校事務職員及び新転任教員を対象としたものです。研修講師は本センター山野元気指導主事で、研修テーマは「校務での基礎的なICT活用方法、ルール、情報モラルなどについて」です。

← 研修で使用了スライドの一部

<受講者感想>

- ・保健室は個人情報をとても多く取り扱うため、改めて取り扱いに注意しようと思った。
- ・個人情報の取り扱いに関しては、学校事務は児童だけでなく、教職員のものも扱うため、より一層気をつけようと思った。
- ・Web研修の中でもグループで話し合いができることを知った。授業でも取り入れていきたい。

ICTを活用した授業づくり研修②

研修の流れ

1. 情報教育の現状について
2. ICTを効果的に活用した授業実践の紹介
3. ICT支援員がおすすめする「ICTを活用した授業」
4. シンキングツールの活用体験
5. データサイエンスについて
6. その他の教材等の紹介

令和5年6月22日(木)午後3時30分～午後5時にICTを活用した授業づくり研修②を行いました。講師は本センター山野元気指導主事で研修テーマは「授業づくりについて(ICTを効果的に活用した授業展開例)」です。

← 研修に使用了スライドの一部

<受講者感想>

- ・クリティカルシンキングの観点でICTを使った授業づくりのアイデアを思いついたので、自身の授業に取り入れていきたい。日々の授業でICTを活用し、生徒たちが様々な考えを共有できる一つのツールとして今後も使っていきたい。
※クリティカルシンキング(Critical Thinking):論理的・構造的に思考するパターン。批判的思考と訳されることもある。
- ・教科書の内容を知ったうえで、それを活用してタブレットで何かを作って発表するというのは楽しそうだった。効果的にICTを使うことで、子どもの考える時間や作業が増え、活動的に取り組めるのもICTのメリットであると感じた。
- ・やっぱりシンキングツールは子どもたちにとっては理解や自分を整理するためにとっても効果的だと改めて感じたので、ぜひ1学期の間にも授業で使っていきたい。

通級指導教室担当者会(公開授業研①)

令和5年6月23日(金)午後3時～午後5時に通級指導教室担当者会(公開授業研①)を行いました。最初に授業公開(動画視聴)を行い、その後一般社団法人発達支援ルーム「まなび」の今村佐智子理事に指導・助言をしていただきました。

<受講者感想>

□公開授業（動画視聴）から学んだこと、考えたことなどをお書きください。

- ・明るい楽しい雰囲気や子どもの行動を認める声かけが頻繁にあるなど、自分ももっともっと意識していかなければならないと感じた。
- ・どのように覚えたかという児童への確認は、その児童にとってのいい覚え方を身に付けることに繋げることができると思う。また、一つの活動のバリエーションの多さも今後の自分の通級指導への学びとなった。

□講義で学んだこと、講義の内容について思ったことや考えたこと、自身の業務に活かせることなどを書いてください。

- ・児童の特性に応じて、どのような対応をすれば、気持ちよく学校生活を送れるか、をアセスメントや行動観察で考えていくことが大事だと改めて感じた。
- ・苦手なことだけをトレーニングするのではなくて、得意なことの中に苦手なことを鍛える要素を入れてやっていく、ということが児童が楽しく前向きに取り組める秘訣だと感じた。
- ・衝動性がある児童の対応について、なぜ、うそをつくようになるのか、という点を詳しく教えていただきよくわかった。子どもが自分自身を守るために、また自信がないことや不安感から問題行動を起こすということを常に頭に入れ、どうすれば、問題行動を起こさないようにできるか、その対処法と一緒に考えていければと思った。できるようになったという自己肯定感や次への意欲につなげられる時間にしていきたい。

教頭研修会（ICT教育）



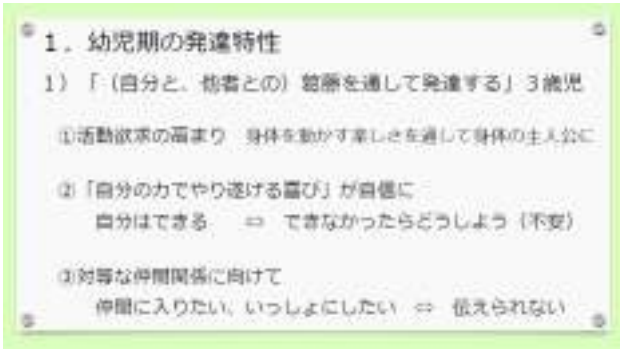
令和5年6月27日（火）午前9時30分～午前11時30分に教頭研修会（ICT教育）を行いました。講師は園田学園女子大学堀田博史教授で研修テーマは「ICT教育の推進について」です。

<受講者感想>

- ・ICT教育の推進ということで、明日からでも校内ですすめていけることを具体的に考えることができた。これからの時代において、児童生徒自身が、自己調整力をつけていくこと、それに向けて教員が意識し、主体的に自己調整力を伸ばせるように指導していくことが重要だと思った。そのために学校全体で計画的にとりくんでいこうと思う。
- ・制限をできるだけかけない方がよいというのもわかるが、授業者は、全体の展開を考えたり、授業規律をつくることも念頭におきながら授業展開をすすめているので、その兼ね合いが難しいと感じた。
- ・子どもたちのニーズをしっかりと感じながら、本校、本校区における課題を見出して解決に向けた取組みを考えていきたいと思った。

幼児教育研修<初任ステージ研修①>

令和5年6月29日（木）午後3時～午後5時に幼児教育委研修<初任ステージ研修①>を水道局大会議室で行いました。講師は大阪大谷大学長瀬美子教授で、研修テーマは「子ども理解 子どもの楽しさに共感し、子ども理解を深めよう」です。

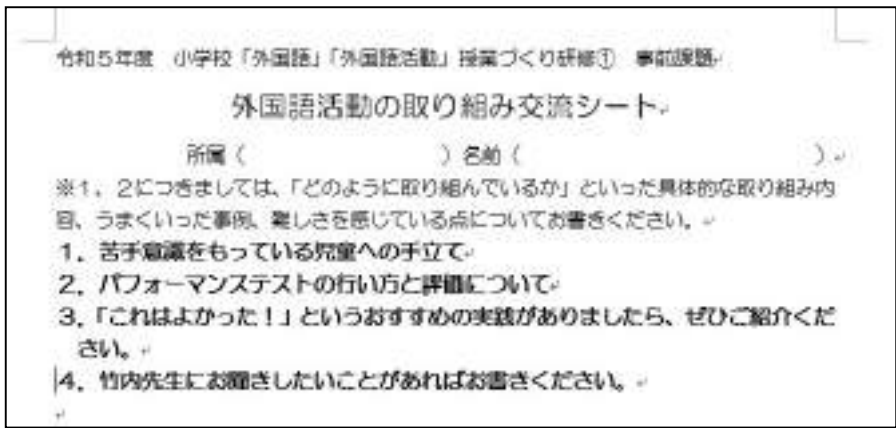


← 研修で使ったスライドの一部

< 受講者感想 >

- 自分たちで考え遊びを作り上げていくという経験が、幼児期以降の成長の中で必要なものであると感じた。
- 3歳児がなぜじっとしてられないかを考えるのではなく、どうすればじっとしてられるのかを考えるべきで、大人の思いを強要するようなことがあってはならない、ということを実感した。
- 3歳児、4歳児、5歳児、それぞれの発達特性を知り、具体的な援助の仕方を知ることができた。その上で、保育者側の思いが強くないように気をつけていきたい。
- 「やってみたさ」を引き出す環境を考え、楽しい話し合いの場も意識していきたい。

小学校「外国語活動」「外国語」授業づくり研修



令和5年6月30日（金）午後3時30分～午後5時に小学校「外国語活動」「外国語」授業づくり研修を行いました。講師は関西大学竹内理教授で、研修テーマは「授業の実践から学ぶ外国語の授業づくり～児童のよりよい学びに向けて～」です。

事前に配布した「取り組み交流シート」の一部

< 受講者感想 >

- 成功体験を積み、英語が少しでもできた、話せて楽しい、という気持ちを持たせることがまずは大切だと思った。
 - グループ交流では、ほかの学校の先生方が様々な工夫をしながら実践されていることがよくわかった。
 - 英語を話すとき文法や単語よりもしっかりとコミュニケーションをとろうとすることを大切にしていきたい。「間違えても大丈夫」というメッセージを伝えたい。
 - 評価の具体的な基準について学ぶことが出来た。中でも印象的だったのは、スピーキングテストのアイコンタクトを「主体的に学習に取り組む態度」に反映してもよいということである。基準の軸をもう一度きちんと設定し、シンプルなルーブリック評価を作ることが大切だと考える。
- ※ルーブリック評価：学習の達成度を表を用いて測定する方法。

通級指導教室担当者会④

令和5年7月7日（金）午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室担当者会④を行いました。講師は一般財団法人発達支援ルーム「まなび」今村佐智子理事で通級指導教室における指導について実際の事例をもとにご指導・ご講評していただきました。

<受講者感想>

- たくさんの事例を学ぶことができて良かった。自分が怒るタイミングや原因を、自分で知っていたり、クールダウンの方法を一緒に考えたりすることを、通級でやっていきたいと思った。一人ひとりに合った方法を校内で共有し、一貫した対応をしていきたい。
- 応用行動分析の内容は、とてもタイムリーで、メモしきれないほどの情報をいただいた。早速学校でチームを組んで、学級や子どもたちのために提案していきたいと思う。
- 応用行動分析学の視点は新鮮で、何をすることもアセスメントがキーポイントになるのだとわかった。
- 子どもの自己肯定感を大切にすることをたくさん学ぶことができた。
- 子どもの発達支援に関して、大人のためではなく子どものためという視点を持たなければいけないという話が印象に残った。それは子どもと接する時に全ての場面で必要な視点だと感じた。

※応用行動分析学：子どもの行動だけではなく、行動のきっかけと結果に注目することで、子どもに対する理解を深める考え方。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は6月から7月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）7月号

- 特集1 思考力の育成と評価
- 特集2 特異な才能のある子の支援

「指導と評価」

特集1 思考力の育成と評価

「思考力」といっても相当幅広く、その育成方法も様々です。立命館大学の細尾萌子准教授は「批判的思考力の育成と評価ーフランスのバカロレア試験を中心にー」という文章を寄稿されています。フランスのバカロレア試験は国際バカロレア（IB）とは別物でフランスの大学に入学するための国家資格です。フランスのバカロレア試験では批判的思考力を問います。ゆえに初等中等教育では段階的に批判的思考力を育むことになっているそうです。

「生成AI」の登場により高度な質問に対しても自然な文章で答えが得られるようになりました。だからこそ、今批判的思考力の育成が大切です。AIによって作成された文章の妥当性を批判的に判断しなくてはなりません。実際にやってみると分かりますが、AIはもっともらしい文章を生成します。生成AIの利用方法については議論が始められようとしています。それよりも先に利用が進んでいくものと思われます。もちろん教育の場面にも入ってくるでしょう。とすれば、その文章を批判的に読み解く能力を育むのは喫緊の課題です。学習指導要領で評価における3つの観点の一つ「思考・判断・表現」のうち、「判断」が重要な意味を持つてくるのかもしれない。

（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）7月号

- ・スラスラ書ける指導案づくり 定番教材のモデル付

「こころの科学」（日本評論社）7月号

- ・特別企画 心理療法のエッセンス こころに動きをもたらすもの 内海新祐・青木省三編

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）7月号

- ・特集1 全体への声かけと個への声かけ、その違いと配慮
- ・特集2 しばしば遅刻する子にどう対応するか

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和5年夏 No.90

- ・特集 各教科等における資質・能力の育成のためのICT活用

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）7月号

- ・特集 学び、成長し続ける教師～豊かなキャリア発達のために～

「特別支援教育研究」

- ・特集 学び、成長し続ける教師～豊かなキャリア発達のために～

この特集については【特集のねらい】が述べられています。その中で私の目を引いたのは「これら（子どもの学び）と教師の学びは『相似形』である」との一文でした。これは令和4年12月19日に出された中央教育委審議会答申の一部です。そもそもこの会の審議会は文部科学大臣から「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について中央教育審議会が諮問を受け、審議し答申したものです。その中でこの表現が一回だけ出てきます。子どもの教育では「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」などが課題とされています。大学での教員養成、教育委員会・学校内での教職員研修、これらは「相似形」になっているのでしょうか。考えてみれば当たり前のことですが、自分がやったこともないようなことを子どもにやらせるのは無理があります。予測不能な社会を生き抜く力を育むためには教師自身が変わる必要があるでしょう。記事の中では様々な角度から提案がなされています。もちろん「特別支援教育」という枠組みに限定されたものではありません。

（葭仲）

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）7月号

- ・特集Ⅰ 心身の健康の保持増進に関する指導
- ・特集Ⅱ [国語]学習指導要領における指導のポイント
伝え合う力を高め自分の思いや考えを表現することのできる「話すこと・聞くこと」の授業改善

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）7月号

- ・特集Ⅰ 学校段階間の接続を踏まえた指導に向けて②<音楽・美術・芸術，保健体育，技術・家庭・家庭・情報>
- ・特集Ⅱ 博物館と連携した教育活動

教育科学「国語教育」（明治図書）7月号

- ・特集 保存版 一生使える 国語授業技術大全

教育科学「社会科教育」（明治図書）7月号

- ・特集 資料&図解で丸わかり！教材研究と授業デザイン



所内のアガパンサス